

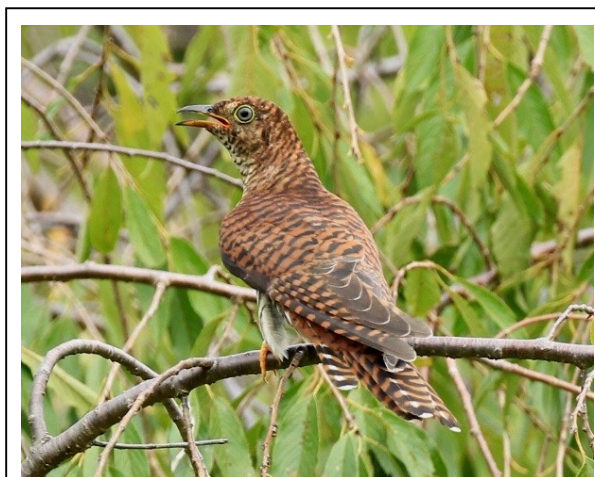
ツツドリ *Cuculus optatus* Gould

【選定理由】

托卵相手であるセンダイムシクイの繁殖期から推測すると、本種の繁殖期も5月中旬以降と思われる。センダイムシクイが山麓近くでも繁殖期に多く生息するようになったのは2000年近くになってからであるが、本種は標高の高い場所で2005年頃から生息数が減少しており、それ以前より山地全体から本種の声聞く頻度は減少している。

【形態】

全長 32cm。頭部から上面および顔から胸にかけて濃い灰色で、腹から下尾筒にかけては白色で黒い横縞があり、尾は黒褐色で白斑がある。眼の周りに黄色のアイリングがあり、虹彩は橙色で脚は黄色い。雌では赤色型があり、頭部から上面および顔にかけて赤褐色で黒褐色の斑がある。幼羽は、頭部から上面および顔が黒褐色で、各羽の先端に汚白色の白斑があり、虹彩は暗色。



愛知県名古屋市長古屋市, 2012年9月6日, 鈴木恒則 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

夏期に主として三河地方の山地に少数が飛来して繁殖する。春秋の渡りでは、市街地や半島、河川敷、沿岸部などでも見られることがある。

【国内の分布】

夏期に九州以北に飛来して繁殖する。

【世界の分布】

西シベリアからカムチャツカ、サハリン、オホーツク海沿岸から中国東南部、台湾、マレー半島、ジャワ、ボルネオ北部で繁殖し、東南アジア、ニューギニア、ニュージーランド北部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

4月中下旬に飛来して8月から10月にかけて飛去する。繁殖期に生息記録があるのは、主に三河山地の頂上付近から山麓近くまでの範囲である。主にセンダイムシクイに託卵して繁殖しており、雄は竹筒を叩くような低い声でポポッ、ポポッ、ポポッと鳴き、雌は早口でピィピィピィ・・・と鳴く。カッコウの仲間では大きさもカッコウに似るが、カッコウより少し小さく色が濃い。

【現在の生息状況／減少の要因】

近年は平野部に近い山でも繁殖期に声を聞くようになってはいるが、本来生息数の多い種ではなく、県内全体では繁殖期にその声を聞く頻度は減少している。減少の要因は不明であるが、托卵相手のセンダイムシクイの数には変化がないか、逆に標高の低い部分では増加している。

【保全上の留意点】

落葉樹林や針広混交林を好むので、林業生産に向かない地形や場所にある人工林は、多様性のある本来の植生に復元していくべきである。

【特記事項】

カッコウの仲間4種中、春の渡りは、本種が4月中・下旬で最も早く飛来する。ジュウイチは4月下旬から5月、カッコウが5月上・中旬、最も遅いのがホトトギスの5月中・下旬で、本種よりおよそ1ヶ月遅く飛来する。春の飛来時期の違いは托卵相手の営巣時期の違いが考えられ、センダイムシクイは本種より少し前に渡来し、コマドリやコルリ、オオルリもジュウイチより少し前に飛来する。オオヨシキリもカッコウより早く飛来し、モズは1回目の繁殖中である。ウグイスの場合、ホトトギスが飛来する頃には1回目の繁殖が終わりに近い。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.41. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)